

2024.3

広島県 医療勤務環境改善支援センター

春

# News Letter

## 第11回 医療勤務環境セミナー 開催

令和6年1月17日（2024年）、ホテルグランヴィア広島およびオンラインにて「第11回医療勤務環境セミナー」（主催 広島県、共催 広島労働局）を開催し、県内の医療機関等から約30施設が参加しました。

まず、広島県健康福祉局医療介護基盤課 加川伸課長より、地域での医療提供に対する御礼等挨拶を行いました。

その後、講演①「働き方改革と勤務環境改善～勤務環境も改善できる医療安全研修～」では、医業経営アドバイザーより働き方改革の機会を勤務環境改善に有効に活用するために、医療安全研修や時短を積極的に行う診療科において、広島県医療勤務環境改善支援センター（以下、勤改センター）の勤務環境チェックが活用できることを紹介しました。

最後、済生会横浜市東部病院 統括院長補佐 丸山路之先生の特別講演では「患者さんへの治療・ケア効果が最大限になるためのタスクシフト/シェア～タスクシフトとinterprofessional work～」と題してオンラインにてご講演がありました。（以下、参照）



挨拶する広島県医療介護基盤課  
加川 伸課長



オンラインにてご講演される  
丸山 路之先生

## タスクシフトの目的は“患者さんの利益”

済生会横浜市東部病院 統括院長補佐 丸山路之先生

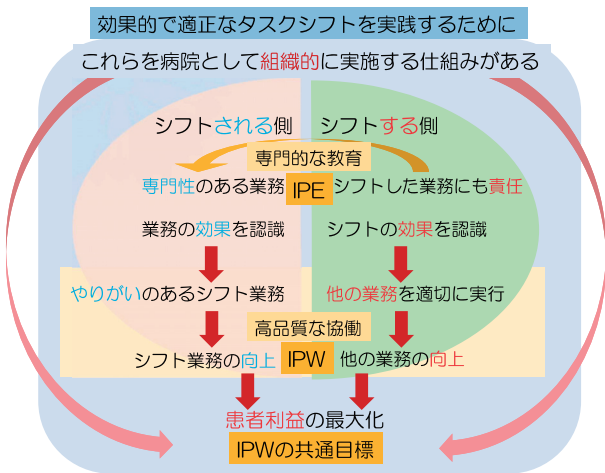


医師の働き方改革でのタスクシフトでは、多職種間での連携が欠かせません。多職種間での連携はinterprofessional work（以下、IPW）といい、『複数の専門職者がそれぞれの技術と役割をもとに共通の目標を目指す協働のこと（大塚,2009年）』と定義されています。

高品質なIPWには、専門的な教育：interprofessional education（以下、IPE）が必要となります。また、体制などを整える必要があるため、タスクシフトなどの業務改革に加えて組織改革、制度改革を3本柱として実施しました。

タスクシフトの目的は、医師の時間外労働の短縮（以下、時短）のみではありません。業務をシフトすることにより医師は他の業務に集中し質を向上することができ、またシフトされる側はシフトされる業務の効果ややりがいを感じ、それらによって患者さんの利益につなげることが真の目的となります。

（裏面に続く）



【図】シフトする側・される側と組織的な支援

# タスクシフトは働き方改革検討委員会等で検討、導入していく

タスクシフトにあたっては、全体を統括する働き方改革検討委員会を設置し、その下にタスクシフトの要望受付や業務の評価、進捗等を把握・検証する小委員会も設置しました。

実際のタスクシフトには、図のようなものがあります。医師事務作業補助者へのタスクシフトには、電子カルテ（以下、電カル）や診断書の代行入力やデータベースへのデータ登録などがあります。医師は1日1回電カルを確認・チェックする義務があり、医師の確認遅れがないかについても管理しています。

特定看護師については、院内の認定制度で指導医の評価を受けて認定された行為しか実施されません。行為としては、橈骨動脈ラインの確保や壊死組織の除去などが実施されており、実績はすべて報告され定期的にまとめています。また、最近新たに採用した救命救急士2名についても初期対応など、現場で業務を検討しながらタスクシフトしています。

この他、心臓血管外科手術の術後管理のICUへのタスクシフトや病棟指示を行うhospitalist、手術室で器械出しを行うスクラブテクニシャン等も試行や検討をしています。

## 医師事務作業補助者 (MA) .....

- ◆ 代行入力 … 診断書、申請書など
- ◆ データ登録 … NCD、各レジストリへの登録など
- ◆ 外来支援 … 紹介状から病歴、薬歴などの電カルへの転記

## 特定看護師 .....

- ◆ 血糖コントロールのための薬剤投与
- ◆ 壊死組織の除去
- ◆ 陰圧閉鎖療法
- ◆ 橈骨動脈ラインの確保など

## 救急救命士 .....

- ◆ 初療初期対応（バイタル測定、採血分注など）
- ◆ 胸骨圧迫など

図 タスクシフト例

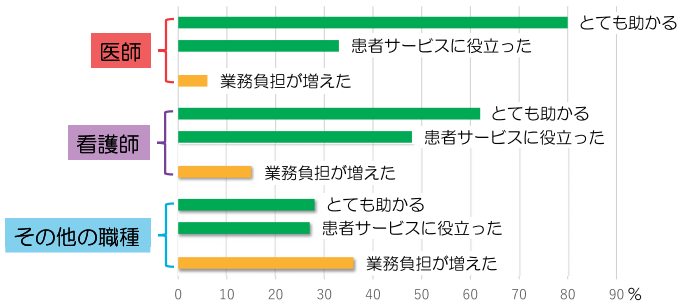


図 タスクシフトする側とされる側の感想 (働き方改革推進室によるアンケート)

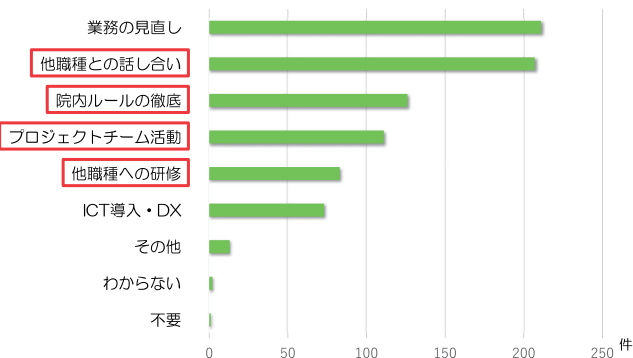


図 タスクシフトする上で必要なこと (働き方改革推進室によるアンケート)

## タスクシフト等で時短、医師はとても助かると感じるも、負担が増えると感じる職種もある

タスクシフトや時短計画策定等の対策により、コロナ禍前に平均約100時間あった医師の所定外在院時間は2023年には約50時間まで半減しました。また、超過勤務月80時間超の医師数も、2021年初めのピーク30人弱から2021年後半には5人前後で推移するようになりました。

アンケートでのタスクシフトへの感想は、する側とされる側で内訳が異なります。する側の医師はとても助かるや患者サービスに役立ったとの感想が多いですが、される側のその他の職種では業務負担が増えたが最も多い感想でした。する側・される側、両方ある看護師はその中間の傾向でした(左上図)。また、タスクシフトを進めるうえで必要なこととしては、他職種との話し合いが多いことがわかりました(左下図)。

IPEを進め、シフトの仕組みを保証する組織体制を整えながら、患者のためのタスクシフトを実施することが重要であると考えています。

お問い合わせ

広島県 医療勤務環境改善支援センター 広島県健康福祉局医療介護基盤課内

TEL:082-513-3057

受付時間: (平日)10時~12時、13時~16時  
(土日祝日、年末年始を除く)